

感覚処理感受性の高い人は表情感受性も高いのか？

182G022 尾崎 那美・182G065 廣井 美月

問題

「人は社会的動物」と言われるように、私たちにとって社会や人間関係における適応は極めて重要である。良好な人間関係を構築するためには、円滑なコミュニケーションが欠かせないが、そのためには、相手の気持ちを読み取り、伝えることが不可欠となる。気持ちを伝える手段の一つとして表情が多く用いられることから、相手の表情に敏感であることは良好な人間関係を構築する上で適応をもたらすのだろうか。これまでの研究では、自閉スペクトラム症や高次脳機能障害、統合失調症患者などで表情を読み取る能力が低下していることが明らかになっている。しかしながら、その一方で色々な刺激に敏感すぎることも不適応の原因となるかもしれない。たとえば、HSP (highly sensitive person) と呼ばれる人たちは、さまざまな刺激において敏感であることが知られているが、表情の読み取りにおいても敏感な反応を示す傾向があるのかもしれない。

そこで本研究では、大学生を対象に HSP 傾向と表情識別能力の関連性を検討する。加えて、近年、新型コロナウイルス感染症の流行によってマスクを着用しなければならず、相手の表情や感情を目から読み取らなければならない状況にある。そこで本研究では、目からの感情読み取り能力についても調べ、その関連性についても検討する。

方法

参加者 男性 11 名、女性 19 名の計 30 名 (平均年齢 20.5 歳) の大学生が参加した。

課題 HSP 傾向の測定は高橋 (2016) の HSPS - J19 によって行った。また、表情感受性を調べる課題として吉田・熊田 (2011) の表情識別課題と Autism Research Centre (2021) の「目から心を読むテスト」を使用した。

手続き まず初めに吉田・熊田 (2011) による表情識別課題を行った。表情識別課題では画面左に表示してある表情が、喜び、悲しみ、驚き、怒り、嫌悪、恐怖のどれに該当するのかを選択した。この課題は表情の視力検査のような課題となっており、参加者の選択が正解であれば次に同じ表情が出てくるときには表情の強度が小さく、選択が間違っていれば強度が大きくなるようプログラムされていた。これによって、6 種の基本表情のそれぞれについて、参加者が識別できる

閾値を測定するようになっていた。次に、参加者は「目から心を読むテスト」を行った。このテストは、目だけが表示されている写真を見て、「嫉妬している」「混乱している」「横柄な気分である」「憎しみをもっている」などの 4 つの選択肢から一つを選択する課題であった。最後に、参加者は HSPS - J19 に回答した。

結果

表情識別課題によって測定された表情感受性は Figure 1 に示すようになった。この結果について、参加者の性 (2 水準: 男性, 女性) × 表情の種類 (6 水準: 喜び, 悲しみ, 驚き, 怒り, 嫌悪, 恐怖) の 2 要因分散分析を行ったところ、性の主効果 ($F(1,28)=1.31, ns$) と性 × 表情の種類 of 交互作用 ($F(5,140)=0.35, ns$) は有意ではなく、表情の主効果のみが有意であった ($F(5,140)=79.59, p<.0001$)。そこで、Ryan 法による多重比較 ($p<.05$) を行ったところ、表情識別閾は、小さい方から、喜び < 驚き < 怒り < 悲しみ < 嫌悪 < 恐怖の順で鈍感になっていくことがわかった。

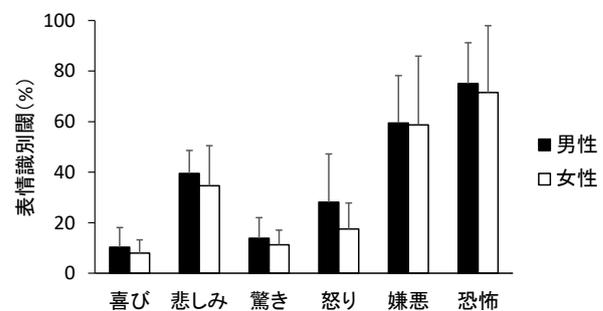


Figure 1. 表情識別能力の結果。

Eyes Test の平均得点 (正答数) は、男性が 18.91 ($SD=1.96$)、女性は 20.21 ($SD=2.84$) であり、有意な性差は認められなかった ($t(28)=1.43, ns$)。

これらの表情に対する感受性と HSP 傾向が相互にどのような関係にあるのかを調べるために、相関行列を求めた (Table 1)。その結果、HSP の下位尺度である低感覚閾、易興奮性、美的感受性は、それぞれ HSP の合計得点と有意な相関を示していたが、下位尺度間で見ると、低感覚閾と易興奮性の間にしか有意な相関は認められなかった。また、表情識別能力の相関分析からは、悲しみ、驚き、怒り、嫌悪、恐怖の 5 つの表情は表情識別能力の平均値と有意な相関を示していたが、

喜び表情だけは、平均値とも他の5表情の結果とも有意な相関を示さないことがわかった。また、これらの表情識別能力と Eyes Test 得点の相関を見ると、喜び表情と恐怖表情において、Eyes Test 得点と有意な負の相関が認められ、これらの表情に敏感な参加者ほど、目から表情を読み取る能力が高いことがわかった。

なお、本研究の最大の関心事であった HSP 傾向と表情識別能力や Eyes Test 得点の間の相関については、有意な相関を認めることはできなかった。

考察

本研究の結果、まず表情識別能力についてみると、我々は喜びや驚き表情は10%前後表出されていれば検出できるほど敏感であるが、恐怖表情は70%以上表出されないと検出できないほど鈍感であるというように、表情の種類によって感受性が異なることがわかった (Figure 1)。また、表情識別能力と Eyes Test 得点との相関を見ると、もっとも敏感な喜び表情ともっとも鈍感な恐怖表情の感受性が Eyes Test 得点と有意な相関を示すことがわかった (Table 1)。

喜び表情は、老化や認知症、脳損傷の影響を受けにくい点で特殊な表情である (吉田・熊田, 2011)。さらに、喜び表情の感受性は他の表情とは相関しないと言われる。本研究においても、喜び表情の感受性は、他の表情に対する識別能力や表情識別能力の平均値と相関をもたなかった。なお、この喜び表情は通常もっとも識別が容易であるのに、自閉症児においてはその優位性が認められないことが知られている。また、恐怖表情は、脳の皮質下の情動回路である扁桃体損傷患者において認識が困難になることが知られており、この回路が自閉症児において障害されているという証拠もある (Johnson, 2005)。Eyes Test は自閉症のスクリーニングを目的として開発されていることから、本研究でも、その得点は自閉症児が認識に困難を示す喜びや恐怖表情の感受性との間に有意な相関を示したのだろう。

それに対して、本研究で得られた参加者の HSP 傾向は、表情識別能力や Eyes Test 得点と有意な相関を示す

ことはなかった。この理由として、まず、HSP が自閉症のような神経性の障害とは異なることを示唆する結果と考えられるのではないだろうか。HSP 自体、自閉症のような脳の器質的障害に起因する発達障害とは異なると言われている。HSP 傾向が表情識別に関する結果と関連をもたなかったことは、それが器質性の問題を反映するわけではないからと考えられよう。

また、HSP 者は、単に刺激に敏感だけでなく、鈍感な側面を持ち合わせていたり、単に刺激を嫌悪したり回避しようとするだけでなく、刺激を好み向かっていく傾向もあることが知られている。Brown & Dunn (2002) は、このような HSP の感覚特性として、感覚探求、低登録、感覚回避、感覚過敏の4つの因子からなる「感覚プロファイル」を提唱している。本研究では、HSP 傾向と表情識別能力の間に相関がみられなかったが、感覚プロファイルのような概念を用いて HSP の背景にある感覚感受性をより詳細にとらえることで、その特定の側面が他者の感情表出に対する過度な敏感さと関連する証拠も得られるかもしれない。その点については、今後の課題としたい。

引用文献

- Autism Research Centre (2021). *Eyes Test (Adult)* Autism Research Centre. Retrieved from <https://www.autismresearchcentre.com/tests/eyes-test-adult> (April 28, 2021).
- Brown, C. E. & Dunn, W. (2002). *Adolescent/Adult Sensory Profile: User's manual*. San Antonio, TX, The Psychological Corporation.
- Johnson, M. H. (2005). Subcortical face processing. *Nature Reviews Neuroscience*, 6, 766–774.
- 高橋 亜希 (2016). Highly Sensitive Person Scale 日本版 (HSPS-J19) の作成 感情心理学研究, 23, 68-77.
- 吉田 弘司・熊田 真宙 (2011). 社会的相互作用の分析指標としての個人の表情感受性の定量的評価—高齢者研究から得られた知見を中心に— 比治山大学大学院現代文化研究科附属心理相談センター年報, 7, 19-27.

Table 1 HSP 得点と表情識別能力, Eyes Test 得点の間の相関係数

	低感覚閾	易興奮性	美的感受性	HSP計	(1)喜び	(2)悲しみ	(3)驚き	(4)怒り	(5)嫌悪	(6)恐怖	表情平均	Eyes得点
低感覚閾	----											
易興奮性	.532**	----										
美的感受性	.196	.053	----									
HSP計	.866**	.752**	.505**	----								
(1)喜び	.171	-.050	-.003	.074	----							
(2)悲しみ	-.007	-.096	.192	.026	.220	----						
(3)驚き	.096	-.172	.219	.061	.144	.189	----					
(4)怒り	.303	.084	.304	.319	-.133	.067	.616**	----				
(5)嫌悪	.100	.029	-.166	.007	.077	.483**	.193	.087	----			
(6)恐怖	.027	.055	.104	.078	-.033	.142	.208	.123	.546**	----		
表情平均	.164	.007	.125	.142	.169	.579**	.517**	.430*	.831**	.736**	----	
Eyes得点	.044	.110	-.310	-.043	-.443*	-.131	-.043	.145	-.131	-.382*	-.262	----

** : p < .01, * : p < .05